

●特別支援教室とは？

通常学級の学習や生活におおむね参加できるものの、集団参加に困難さを示したり、学習の一部に「つまづき」があったりする子どもに対し、個別指導や小集団指導（コミュニケーション、運動）など、それぞれの子どもに応じた支援をしています。例えば字を読むのが苦手、静かに話を聞くのが苦手、ことばで上手に伝えられないなど困っていることがあるとき、特別支援教室へ通うことで、自分に合った学び方を知り、スモールステップで取り組むことができます。また、同じ悩みや困りごとを抱える仲間と出会い、困ったことが起きても対応する力を身につけることで、子どもたちが笑顔になれる教室です。

●連携に力を入れ、チームで支援します

特別支援教室では保護者、在籍学級の担任、特別支援教室の担任が連携して子どもを支援しています。連絡ノートを三者で記入し、毎週の子どもの様子を共有し、多くの目で子どもたちをサポートします。



特別支援教室「ひまわり」(三小六小) 森村美和子先生にうかがいました

●子どもたちとの向き合い方

つい苦手なことに目が向きがちですが、子どものよさや得意なこと好きなことを大切に、強みを生かす指導を心がけています。また、目の前の困りごとだけでなく、将来を見据え、今何をすべきかをチームで考え支援していきます。感覚や感性が豊かな分、繊細で傷つきやすく自分だけがダメなのかなと感じている子どもたちに出会います。言葉でうまく表せないという理解されにくく、本人もつらいので、まずは自分の思いを表現できることを大切にしています。話しても大丈夫だという安心で安全な場があること、きもちカード等の視覚的な教材の活用等、本人の

やりやすい方法で、話せるようになり、自分の気持ちを言語化できると感情のコントロールもしやすくなるがあります。



きもちカード

●子どもたちのコメントより

「自分ペースで学べるから楽しい」「仲間がいるから頑張れる！」「扉の向こうは別世界と思わずに、扉をたいてみてください」「特別支援教室は、自分の居場所であり、修行の場でもある」

●森村先生からのメッセージ

特別支援の担任は、子どもにとってよき通訳者であり、よき伴走者でありたいと思っています。本人をとりまく環境を整えたり、本来の力を引き出すお手伝いをしていると考えています。苦手なことや困っていること、好きなこと、得意なことなど含めトータルで自分を好きになってほしいですね。豊かな感性をもった子どもたちに魅力を感じ、子どもたちの可能性を信じています。日々子どもたちから多くのことを学んでいます。

特別支援教室の学習 ～自立活動～

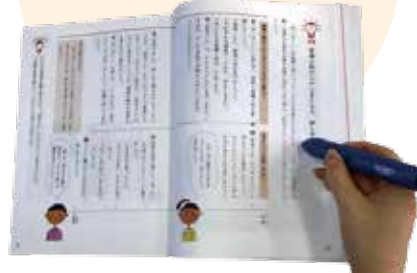


ソーシャルスキルの学習を中心に、人と上手にかかわる方法を仲間と共に活動しながら学び、自己理解を深めます。

小集団でのコミュニケーションの指導

音声付き教科書と読み上げペン

ペン先で紙面をタッチすると、音声再生されます。見た目はみんなと同じ教科書で、線を引いたり、書き込んだりできます。



パーティションで区切った個別スペースで自分の学習方法や目的を相談して決め、自分のペースで理解していきます。

個別での指導

子どもたちは仲間とともに苦手なことにも挑戦し、自信をつけ、在籍学級に戻ります。

ICT 機器

i Padにアプリをダウンロードして教科書や図書を音声で聞いたり、プレゼンテーションをつくるなどICT機器を活用した子どもにあった指導が行われています。



道具の工夫～椅子～

自分に合った道具や教材の工夫や環境調整も一緒に相談します。この椅子で身体を安定させることにより、活動や学習の意欲を高める助けとなります。



運動指導



トランポリンやバランスボール、ゲームを取り入れた運動で、学習に集中できる体や心をつくりまします。

相談窓口

各校または市役所、教育相談所にご相談ください

さまざまな教育の場を紹介しながら、子どもがもっている力を伸ばすためにはどのような環境や学習が必要なのかを、子どもの状態に応じて、保護者とともに考え、より適した就学先を相談します。お気軽にご相談ください。詳細はホームページでもご覧になれます。

泊江市教育委員会 就学相談担当  
03 (3430) 1328

泊江市教育研究所 教育相談  
03 (3430) 6655



■特別支援教室

小学校						
学校名	一 小	三 小	五 小	六 小	和 泉 小	緑 野 小
教室名	けやき教室	ひまわり教室	ふたば教室	ひまわり教室	けやき教室	ふたば教室

中学校				
学校名	一 中	二 中	三 中	四 中
教室名	くすのき教室	くすのき教室	くすのき教室	くすのき教室

■固定学級

学校名	小学校			中学校	
	一 小	三 小	緑 野 小	一 中	二 中
学級名	いずみ学級 (知的障がい)	あおば学級 (自閉症・情緒障がい)	えのき学級 (知的障がい)	1 組 (知的障がい)	2組(休級中) (自閉症・情緒障がい)
学区域	一・三・六小・※和泉小 ※和泉2丁目・3丁目・4丁目 11～23番・5丁目1～16番 元和泉2丁目・3丁目、東和泉4丁目	市内全域 ★平成30年4月に オープンします	五小・緑野小・※和泉小 ※和泉1丁目・2丁目、中 和泉4丁目24～25番・5丁 目17～43番	市内全域	市内全域

『チーム学校』で、子どもや家族をトータルサポート(六小のケース)

週に1回の校内委員会で、その子にとってどのような支援が必要か、具体的な支援方法を検討します。学校の構成メンバーは、校長や特別支援教育コーディネーター、専門教育相談員、特別支援教室担任です。他にも特別支援教室専門員、スクールカウンセラー、言語聴覚士など専門家が参加し、情報を共有することで、ベストな支援方法を考えます。子どもだけでなく、家族のサポート方法も検討します。



日々の子どもの様子や保護者との連絡を行い、校内委員会でどの支援が必要か適切に判断できるようにしています。子どもは日々いろいろな表情を見せるので、必要なことに早く気づきスピーディーに連携し対応できるように心がけています。

特別支援教育コーディネーターの森本先生

泊江市教育研究所を拠点とし、専門教育相談員として、泊江第六小学校には週に2回訪問し心理相談を行っています。行動観察や発達検査の結果を分析し、子どもの支援につなげています。

専門教育相談員の菅さん

多様性理解 ～みんな違っていいんだよ～

小学校の学級活動で、「自分のことを知る」「友達のことを知る」時間を設けています。「みんな違っていいんだよ」「一人ひとりが大切な存在」「だから、お互いにあたたかく接したいね」というメッセージが込められた時間で。

